

## 4 梶井 基次郎文学碑

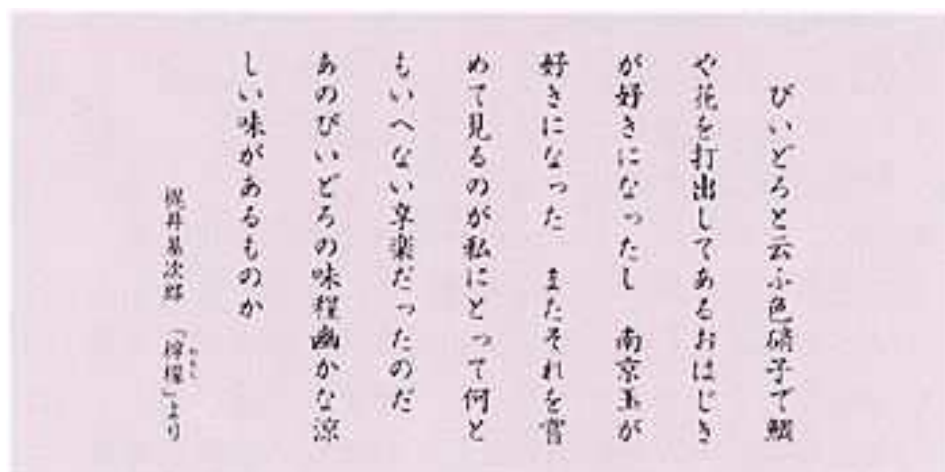
### ■場所

西区靱本町一丁目

靱公園内

### ■交通

地下鉄:本町(28号出口)



### 梶井 基次郎(1901年～1932年)

梶井基次郎は、明治34年(1901年)大阪市西区土佐堀通五丁目(現西区土佐堀三丁目)に生まれ、昭和7年(1932年)3月24日死去した。

江戸堀尋常小学校に入学後、父の転勤により、小学校を二度(東京、鳥羽)、中学校を一度(大阪)変わり、大正8年北野中学校(現北野高等学校)を卒業、第三高等学校(現京都大学)を経て、東京帝国大学文学部英文科にすすんだ。中学校時代発病した病気が、彼の生涯を苦しめた。

大正14年、中谷孝雄、外村繁らと同人誌『青空』を創刊し、その創刊号に「檸檬」を発表、以

後、「城のある町にて」「泥濘」「路上」「椽の花」「ある心の風景」などを次々に発表した。

大正 15 年、病状が悪化し、転地療養のため、伊豆湯ヶ島温泉落合楼に投宿、昭和 3 年 5 月まで同地に滞在した。この間、同地に滞在中の川端康成を訪ね、自作についての批評を乞い、以来川端に親近した。

昭和 2 年、『青空』休刊後は、『文芸都市』の同人となった。昭和 3 年、「蒼穹」「冬の蠅」「ある崖上の感情」などを発表した。病身となり、臥床する 때가 多く、同年 9 月、静養のため帰阪した。

その後、昭和 6 年には、三好達治、淀野隆三らの尽力で創作集「檸檬」を出版し、翌 7 年には、「のんきな患者」を『中央公論』に発表して、初めての原稿料をもらった。しかし、病状が悪化、31 歳の短い生涯を閉じた。彼の死後、作品は高い評価を得た。

彼の作品は、自らの心の中を洗練された詩的な文章であらわしたもので、「珠玉のような作品を書き残した作家」といわれている。

墓所は、大阪府中央区中寺二丁目の常国寺。